

経営協議会学外委員からの指摘事項への対応について(平成28年度対応済み分)

広島大学

事 項【意見抜粋】	本学の対応	対応室	指摘回	対応状況
<p>大学の研究施設を活用した共同研究の推進について 【AMEDの研究費の獲得の推進をしてほしい。】</p>	<p>AMEDIに関する各事業の公募等情報の収集及びその情報の研究者への提供機能強化を目的に、平成28年5月より学術部長、霞地区運営支援部長、副理事(病院経営担当)を中心に「AMED対応連絡会議」を設置。 連絡会議には、事務局として、担当URA2名及び産学コーディネーター1名を配置。担当URA等がAMED事業の実施条件の分析、学内研究者との意見交換後、担当者に直接アポイントを取り、情報収集に努め、(情報収集のほか、AMED担当者による説明会の企画・開催)などにより研究企画・実施体制を整備。 また、公募情報等の一元管理を行うとともに、研究者への提供を適時・適切に行えるよう、学内ポータル「いろは」内にAMEDに関する情報提供を行うページを整備した。</p>	学術室	第52回 (27.9.2)	対応済 (28.11.9 報告)
<p>海外からの評価について 【広島大学を海外の方にも評価してもらい、日本国内では気づかない良いところを指摘してもらえるのではないか。】</p>	<p>本学の第2期中期目標期間(平成22年度～平成27年度)に係る業務の実績を取り纏めた「平成27事業年度に係る業務の実績及び第2期中期目標期間に係る業務の実績に関する報告書」を英語に翻訳し、本学ホームページ(英語版)に掲載するとともに、今回、スーパーグローバル大学創成支援(SGU)の評価を国外のアドバイザーボードにお願いする際の参考資料として活用する。</p>	財務・総務室 グローバル化推進室	第54回 (28.1.21) 意見交換会	対応済 (28.11.9 報告)
<p>学生の英語力について 【英語が話せるだけでは英語を使ったコミュニケーション能力は伸びないため、外国人と接して英語を話す機会を与えることも大事ではないか。】</p>	<p>本学では、当たり前にも異文化間のコミュニケーションが出来るキャンパスを一つの目標としており、その環境づくりの一環として学生宿舎における留学生と日本人の混住を進める等により、英語及び英語以外の外国語を話す機会並びに異文化交流を促進している。また、日本人の入居者には、宿舎の管理・運営にも積極的に関わってもらい、外国人の入居者とコミュニケーションをとる機会が多くなるよう、配慮している。 それ以外にも、昼休み時間を活用して、日本人学生と留学生が昼食を持ち寄りて食事をしながら交流を行う「International Luncheon」、会話の練習相手を探している日本人学生と留学生を募り、会話相手を紹介する「会話パートナー」、留学生に広島県内の観光地を案内する「バスター」へのボランティア参加など、学生同士が交流できるよう、さまざまな機会を設けるようにしている。</p>	教育室 国際室	第56回 (28.6.7) 意見交換会	対応済 (28.11.9 報告)
<p>留学生を増やすことについて 【協定校と留学生を交換する仕組みを作れば、長期的に留学生の派遣、受入も増えるのではないか。また、留学生への支援も必要になるのではないか。】</p>	<p>海外拠点を置いている地域では、本学の卒業生が校友会を結成し、本学への留学に関する広報活動にも協力してもらっており、学生を推薦してもらう計画も進めている。最近では、新たな拠点として、エジプトにカイロセンター、インドネシアにPERSADA共同プロジェクトセンターを設置しており、現地での広報活動が進められている。また、カンボジアとミャンマーでも、学生交流促進の拠点とするための海外拠点の設置を進めている。これまで校友会が結成されていなかったカンボジアでも、2016年3月に校友会が結成された。このように、海外との学生交流を促進するうえでの基礎となる海外ネットワークの強化を進めている。 また、学生支援のため、寄附者の名を冠する奨学寄附金である「冠事業基金」を新たに創設し、既存の「広島大学基金」に加えて学生への支援を拡充している。 本学では、協定校との間で、交換留学以外にも、学生の短期研修の派遣・受入れなど様々なプログラムを展開している。しかし、個々の協定校との間では、派遣する学生と受け入れる学生の人数を等しくするよう取り決められているため、交流する学生の人数には限りがある。協定校との間で学生の派遣・受入れを増やしていくためには、協定校を拡大し、広島大学への留学希望者を、広く募っていく必要がある。現在、学長が積極的に海外の大学を訪問して協定締結に向けた交渉を進め、新たに協定を締結するなど、協定校の拡大を進めている。</p>	国際室 財務・総務室	第56回 (28.6.7) 意見交換会	対応済 (28.11.9 報告)
<p>両生類研究センターの今後の展開について 【学内連携組織にある医歯薬保健学研究科、国際協力研究科、総合科学研究科、生物圏科学研究科・理学研究科に、将来的にどのようして貢献するのか。】</p>	<p>両生類研究センターは、ゲノム編集技術やゲノム情報等を活用した先端的両生類研究を進める中で、従来からの理学研究科との協力のほかに、医歯薬保健学研究科とは疾患モデルの研究開発、国際協力研究科、総合科学研究科、生物圏科学研究科とは絶滅危惧種などの遺伝資源の確保、環境保全法の開発などの研究において協力を進めることを想定している。また、両生類の特徴を活かした生命科学研究を通じて、生命・生物系の学際・融合分野の教育研究の創出に貢献させていく。</p>	学術室	第57回 (28.9.9)	対応済 (28.11.9 報告)
<p>感性イノベーション拠点について 【広島大学の感性イノベーション拠点は特色があるため、もっと公表してはどうか。】</p>	<p>これまでのアウトリーチ活動として、毎年度、各メディア等を通じた取組み紹介、公開シンポジウム開催(広島)、JSTフェアにおけるブース出展(東京)、ホームページトピックスによる活動状況公開などを行ってきたところである。 公開シンポジウムに関しては、本年度は東京都内で11月30日に開催することとし、広島大学の特色のある本拠点の活動をより広範な方々へアピールすることとしている。今回の東京地区でのシンポジウムでは、第1フェーズ(H25-H27)での感性の可視化技術(BEI)を活用した社会実装の成果などを中心に、サテライト拠点となる自然科学研究機構生理学研究所や静岡大学と共に活動報告する予定である。(広島市内でも例年通り1月に開催予定) 拠点ホームページに関しては、本学の特色のある活動として位置付けトップページにバナーを貼り付け公開しており、英語版も作成しグローバルな視点で本拠点の取組みを紹介しているところである。今後、拠点活動がより分かりやすく伝わるようリニューアルすることを検討している。 また、拠点パンフに関してはJST作成パンフのみであったが、感性COI拠点単独の広報用パンフ(日本語・英語)も準備中であり、関係機関等へ広く配布することとしている。</p>	社会産学連携室	第57回 (28.9.9) 意見交換会	対応済 (28.11.9 報告)